

『ONE PIECE』×人形浄瑠璃 清和文楽プロジェクト

11月5、6日の熊本県立劇場での特別公演（初演）に向けて準備を進めている『ONE PIECE』×人形浄瑠璃 清和文楽プロジェクト。今回は改めて人形浄瑠璃の世界を紹介いたします。

～清和文楽とは～ 江戸時代嘉永年間（1850年頃）、この地を訪れた淡路の人形芝居の一座から浄瑠璃好きな村人が人形を買い求め、技術を習ったのが始まりといわれています。地域のお宮の農村舞台で奉納芝居を上演したり、各地の行事に招かれたりするなどして伝承してきました。一時衰退しますが、平成4年に九州唯一の人形浄瑠璃専用の劇場「清和文楽館」が建設され、今では毎年200回前後の公演を行っています。

～人形浄瑠璃とは～ 人形浄瑠璃は、太夫・三味線・人形が一体となり、登場人物のせりふ、会話、物語の展開、情景を表現し、人形が人間の役者以上に深く物語を演じる総合芸術です。

また、人形浄瑠璃芝居には、「世話物」と「時代物」があります。「世話物」は庶民の暮らしの中の出来事をテーマとした人情物語、「時代物」は歴史上の出来事や人物を素材としながらも、そこに庶民の人情や風刺を交えたフィクションとしての物語が演じられています。

【太夫】太夫は、義太夫節によって場面の情景、物語の背景、登場人物全員の言葉などを全て一人で語り分けます。それも単なる声色ではなく、喜怒哀楽を豊かに語ることで、登場人物の性格や人情など人間の本質を表現します。

【三味線】三味線は太夫の語りと一体になって義太夫節の情を表現します。一般的に三味線には細棹、中棹、太棹の3種類がありますが、浄瑠璃で使うのは、太棹（ふとざお）三味線で、重厚で太い音色から物語の背景や心情など人間性の本質に迫る表現が生まれます。



【人形遣い】一体の人形を「主遣い」、「左遣い」、「足遣い」という3人の人形遣いが息を合わせて操り、微かな動きから心情まで、生身の人間以上の感情を表現します。その技は難しく、「足10年、左15年、かしらは一生の修行」ともいわれます。



- ①左遣い…右手で人形の左手を遣い、左手で小道具の受け渡し等を行います。
- ②足遣い…人形の後ろで中腰になり、人形の両足を持って遣います。
- ③主遣い…左手でかしらを、右手で人形の右手を持って遣います。

この人形浄瑠璃の世界で『ONE PIECE』をいかに表現するか。
7月の制作発表内容を広報やまと8月号に一部掲載します。どうぞお楽しみに!!

清和文楽館では、毎週水曜日に「山都町 清和文楽講座」を開催中です!

太夫・三味線・人形・太鼓・笛など、チャレンジしたいパートを楽しく分かりやすく練習します。清和文楽に少しでも興味がある方はまずは見学からお気軽にご参加ください。

- こどもの部（小学4年生から中学生）：16時開始
- 一般の部：18時30分開始
- 受講料：年間1,000円
- 毎週1回60分のプログラムです。
- 皆様のご参加をお待ちしています。



問合（清和文楽及び清和文楽講座について）清和文楽館 ☎ 82-3001 [火曜日休館]
（プロジェクトについて）商工観光課 ☎ 72-1115